

「この命令の目標」

中心聖句

テモテ第一 1:5 「この命令が目指す目標は、きよい心と健全な良心と偽りのない信仰から生まれる愛です。」

ヤコブ 1:27 「父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。」

皆さん、おはようございます。今日もここで皆さんとお会いできて光栄です。2 か月前の 1 月の説教で、聖書に親しみ、頻繁にみことばを読んで、みことばに考え方や生き方を変えてもらうことを皆さんにお勧めしました。そのときのメッセージのタイトルは、「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。」というコロサイ 3:16 からの引用でした。そして、心と思いにみことばを取り入れるあらゆる方法を皆さんにご紹介しました。聖書を繰り返し読むと、キリスト教の教えについて学べます。そして、キリストの弟子としての生き方が分かってきます。1 月のメッセージの中では、私自身が聖書を読んでいて何度も出くわし、深く印象に残った聖書箇所をいくつかご紹介したいと思っていましたが、その時はできませんでした。それで、今月の 3 月 8 日に、2 回のシリーズ説教として、私の態度や振る舞いを変えなければならないと強く語られた聖書箇所を分かち合うことにしました。また、違った意味で印象深い聖書箇所もあります。聖書を読んでいると、それまで気づかなかったキリスト教の福音に関する洞察を得て驚くことがあります。今月の 2 回のメッセージでは、そのような特に私にとって印象深かった聖書箇所をご紹介します。私に大きく影響を与えた箇所は、もしかすると皆さんにも役に立つかもしれません。3 月 8 日の第一部に引き続き、今日は第二部です。

このシリーズのタイトル「この命令の目標」は、「この命令が目指す目標は、きよい心と健全な良心と偽りのない信仰から生まれる愛です。」というテモテ第一 1:5 のみことばから引用しました。この目標とは、おもに聖書知識を得ることではありません。もちろん、聖書とキリスト教の基本的な教えを知るのは大切です。けれども、目指しているのは知識ではありません。目標は、考え方と生き方の変革です。ローマ 8:29 で使徒パウロは、私たちが「御子のかたちと同じ姿」にすることが神の目標だと語ります。

コリント第二 3:18 (リビングバイブル) でパウロは言います。「私たちには顔の覆いがありません。鏡のように、主の栄光をはっきり映すことができます。そして、主の御霊が私たちのうちに働いてくださるにつれ、私たちはますます主に似た者にされていくのです。」私たちクリスチャンは、すでに顔の覆いを取り除けられています。神の事柄について盲目ではありません。私たちは主の栄光を見ることができるのです。そして、18 節をご覧ください。私たちは、「ますます主に似た者にされていくのです。」「ますます」という表現から、これが生涯かけて徐々に進む段階であることがわかります。「主に似た者にされていく」これは、人類がエデンの園で「神のかたち」に造られたさまです。私たちは、徐々に本来のかたちに変えられていきます。今この地上の人生で完全にそのかたちになっている人は誰もいません。この過程は、イエスが再臨される時に完成します。(ヨハネ第一 3:2 参照) しかし、今この地上で私たちは、神と神の御子の品性を映して生きるよう努めるべきです。18 節は、「主の御霊が私たちのうちに働いてくださるにつれ、」とあります。このように生きることを可能にしてくれるのは、聖霊です。

私の ESV 訳スタディバイブルには、18 節について次のように注釈があります。「御霊の働きをとおして主を見る結果、信仰者は変えられる。(ただし、これは瞬時の変化ではなく、時間をかけた聖化の過程である。) 信仰者は、墮落の時にゆがめられた神のかたち(創世記 1:26-

27、コリント第二 4:4, 5:17、ヨハネ第一 3:2 参照)へと変えられていく。神のかたちとは、人間が神に似ているすべての部分を指す。道徳的性質、真理の知識、神に与えられた多くの才能、被造物に対する支配(創世記 1:26-28 参照)等が挙げられる。これは、創造主でありすべての与え主なる神への依存のもと行使される。(コリント第一 4:7 参照)」(Crossway. “ESV® Study Bible より抜粋)

ここに記されたことを見ていくと、「「御霊の働きをとおして…、信仰者は変えられる。」とあります。これは、聖化の過程であり、時間をかけて起こります。「墮落の時にゆがめられた神のかたちへと変えられていく。」創世記 1:27 は、神が男と女を「神のかたちに」造られたと語ります。そして、そのかたちは人が罪に落ちたときにゆがめられました。

スタディバイブルの注釈の続きを見ていきましょう。「神のかたちとは、人間が神に似ているすべての部分を指す。」そして、「創造主でありすべての与え主なる神への依存のもと行使される。」ここで改めて、コリント第二 3:18 の一部を引用します。「主の御霊が私たちのうちに働いてくださるにつれ、」つまり、聖霊がこれを可能にしてくださいます。

多くの人に親しまれる聖書箇所のひとつ、ピリピ 4:13 では、使徒パウロがこう言います。「私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。」神が私たちとともにおられ、神に与えられた務めをなせるよう力づけてくださいます。

私が昔からずっと好きな聖書箇所のひとつがピリピ 2:12-13 です。「こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」ここで、一對の真理が示されています。12 節では、私たちが努める、そして 13 節では神が働かれる、という真理です。どちらも真理であり、両方が私たちの人生に起きているべきことです。

ここで注意すべきことをお伝えします。12 節で、「自分の救いを達成するよう努めなさい。」とありますが、これは努力によって救われるという意味ではありません。新約聖書はいたるところで、救いは信仰によるので、行いによって獲得できるものではないと語ります。この箇所は、神の御国の救われた者にふさわしく生きるとき、きよい生き方をして神に与えられた務めを果たそうとするので、私たちは御国の法則に従って生きることになる、という意味です。この個所でパウロは、まずピリピのクリスチャンがキリストの教えにいつも従順であることを褒めました。それから、「自分の救いを達成するよう努めなさい。」と言いました。英語のニューインターナショナル訳では、「自分の救いを引き続き達成しなさい」とあります。それは、キリストの御国において常に能動的である生き方です。

実は、この個所に初めて注目して黙想した時、この教えは私にとって衝撃的でした。というのも、キリスト教界のあちらこちらから受ける印象に惑わされて、積極的に努力することに尻込み気味だったからです。「神より先走りしないように」と注意を促す説教を聞いたこともありました。説教者は、私たちが奉仕や行いに熱心になるあまり、神が語られることやクリスチャンの兄弟姉妹の意見に耳を貸さなくなるといけない、と伝えたかったのでしょうか。見切り発車で人に迷惑をかけたり間違った方向に進んだりしてしまうことへの警告です。けれども、「神より先走りしないように」というアドバイスを受けて、完璧主義だった私は行動を起こすことすべてを恐れるようになりました。もしかしたら失敗するかもしれないと思い、20 代のころはためらって結局行動しない傾向がありました。

もうひとつ、私には逆効果だった言葉があります。“Let go and let God”というフレーズを聞いたことがありますか。「手放して神に任せよう」という意味です。最初にこの言い回しができたときはどういう意図だったのかわかりませんが、私は文字通りに物事を捕らえがちなので、この言葉も、活動的になりすぎないようにという思いにつながりました。私はこのフレーズの意味を、己を「手放す」ことだと理解しました。自分の思いや期待通りにしようとする思いを手放し、「神に任せる」べきだと考えました。けれども、「神に任せる」ことがどういうことかよくわかりませんでした。けれども、「手放す」という勧めからも、行動することに及び腰になりました。

ですから、ピリピ 2:12-13 のみことばを見つけたときは安心しました。「…自分の救いを達成するよう努めなさい。神は…あなたがたのうちに働いて…」

キリストの御国において私は努めるべきなのだ、務めがあるのだとわかりました。コリント第一 12 章をはじめ、いくつかの箇所は、私たちひとりひとりに違った賜物があると教えます。それは、御国でなされるべきさまざまな務めを果たすためです。マタイ 25 章のタラントのたとえは、私たちが違った能力を持っていて、その能力に応じて務めが与えられており、その務めをすべきだと教えてくれます。

ピリピ 2:13 の素晴らしいところは、与えられた事をなそうと私たちが努めるとき、神が私たちのうちに働いてくださるという約束です。神は、私たちの能力に応じて務めを与えてくださっています。そして、聖霊が御霊の賜物を与え、その務めを果たせるように力づけてくださいます。私たちは努め、神は私たちのうちに働くと約束してくださいます。この箇所には、「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」とあります。長年、神に与えられた務めを果たそうと努力してきて、それらのことをしたいと思うようになっていく自分に気づきました。それらの務めをなすのが心からの願いになるのです。

次に、私にもっとも大きな影響を与えたとも言える箇所をご紹介します。本物の宗教とは何か、皆さんは考えたことがありますか。神に喜んでいただける地上での生き方の根本とは何でしょう。本物の宗教とは、ぼんやりと天国に行くのを待つことではありません。本物の宗教とは、実用的かつ神をたたえるものです。今日皆さんにご紹介する箇所は、ヤコブの手紙 1 章の最後の箇所です。これを読んでも、なぜ私にとってこれがそれほど重要なのか皆さんにはわからないかもしれません。けれども、ヤコブの手紙を初めて学んだ時、深く印象に残りました。

ヤコブ 1:27 「父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。」

これが、きよく汚れのない宗教です。私たちの生き方に現されることを父なる神が望まれる宗教です。それは、社会的弱者を助け、世の汚れに染まらないことです。

この箇所が一番印象的だったとお話したので、これまでの私の説教の多くできよい生き方をテーマにしていた理由がおわかりいただけたかと思います。それは、神に喜んでいただける本物の宗教の半分なのです。私たちは、世の汚れに染まらないよう、自分を守らなくてはなりません。

本物の宗教のあとの半分は、社会的弱者を助けることです。この箇所では、孤児ややもめが挙げられています。旧約聖書では、圧迫や不正の被害をもっとも受けやすい人の代表例として孤児ややもめが挙げられます。

この教えが私の心に響くのには理由があります。大学時代と大学卒業後は、私のクリスチャンとしての世界観が形成された大切な時期でした。そのころ、私は福音派のとてもよい教会に通っていました。教会では伝道が強調されていました。もちろんそれは大切です。イエスは大宣教命令ですべての国で弟子を作るように命じておられるのですから。残念ながら、私はそのころ、クリスチャンが社会正義の追求にかかわるのはうさんくさいことのように教えられました。それは自由主義者のすること、たましいを救うという重要な働きに関わる保守派クリスチャンのすることではない、という教えです。直接的な伝道よりも社会正義の追求にかかわる人は疑ってかかるように教えられました。

繰り返し聖書を読む中で、若いときに教わったそういう偏った教えを捨てる必要がありました。ヤコブ 1:27 や他の箇所は、社会正義の追求はりっぱなクリスチャンの奉仕だと教えてくれました。もちろん、伝道は大切です。しかし、弱者のために社会正義を求めることは、神のみこころにかなったことです。

使徒パウロが異邦人に福音を携えていくことに熱心だったことは誰もが知るところです。ペテロや他の使徒たちも熱心でした。けれども、初期はほとんどの使徒たちがおもにユダヤ人への伝道に重きを置いていました。

パウロは、ガラテヤ 2:7-10 で興味深いことを記しています。「2:7 それどころか、ペテロが割礼を受けた者への福音をゆだねられているように、私が割礼を受けない者への福音をゆだねられていることを理解してくれました。2:8 ペテロにみわざをなして、割礼を受けた者への使徒となさった方が、私にもみわざをなして、異邦人への使徒としてくださったのです。2:9 そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケパとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し伸べました。それは、私たちが異邦人のところへ行き、彼らが割礼を受けた人々のところへ行くためです。2:10 ただ私たちが貧しい人たちをいつも顧みるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めて来たところす。」

10節は、「ただ私たちが貧しい人たちをいつも顧みるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めて来たところす。」と語ります。ユダヤ人に遣わされたペテロと他の使徒たちは、パウロと同労者たちと同じように貧しい人たちを心にかけていました。貧しい人たちをいつも顧みるように、ということでした。

今皆さんにご紹介した聖書箇所から、豊かなクリスチャンの働きには人の物質的及び肉体的なニーズを満たすことも含まれる、と私は気づきました。

アリストテア牧師からいただいた ESV 版スタディバイブルにも、30年前に私自身が見出したこととまったく同じ内容の注釈がありました。10節について、スタディバイブルはこのように記しています。「ここに見られる貧困者に対するパウロの配慮は、聖書が一貫して示す広義的原理に則している。どの時代においても、本物の福音宣教には物質的かつ肉体的なニーズの供給も伴う。イエスが教えを施しながら、病人を癒し、悪霊を追い出されたのと同様である。」

(Crossway. “ESV® Study Bible.”より抜粋)

では、2回にわたる説教のタイトルとしたテモテ第一 1:5 を読みましょう。「この命令が目指す目標は、きよい心と健全な良心と偽りのない信仰から生まれる愛です。」

2回のメッセージの概要としてこの箇所を用いています。クリスチャンの教えの目標は、B) きよい心と、C) 正しい良心と、D) 偽りのない信仰とから出て来る、A) 愛、を持つ弟子を作ることです。3月8日は、A) と B) について話しました。今日はC) と D) についてお話しします。

A (愛) の項では、マタイ 22:37b-39 のもっとも大切な戒めを取り上げました。「…『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 22:38 これがたいせつな第一の戒めです。 22:39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」

ジョン・マッカーサー師は、テモテ第一 1:5 について次のように語っています。「真理を教え、過ちについて警告する目的は、キリストにある真の救いへと人を招くことである。そうすると、きよめられた心ときよめられた良心と偽りのない信仰から神への愛が生まれる。「愛」これは選択と意思の愛である。利他的な自己否認と自己犠牲が特徴であり、本物のクリスチャンのしるしである。」(ジョン・マッカーサー、ジョン・マッカーサー・スタディバイブル、eBook: Revised and Updated Edition. Thomas Nelson)

B (きよい心) の項では、きよい心を持つ重要性を学びました。山上の説教でイエスは、怒りは殺人と同等、欲情は姦淫と同様だとおっしゃいました。怒りや情欲に任せて行動するのは、実際に殺人や姦淫を犯したのと同じように地獄行きの宣告が下るという教えでした。

ところで、前回、テモテ第二の有名な聖書箇所を読むのを忘れていました。ここでパウロは、長年の同労者テモテを励ましています。パウロはテモテ第二 2:22 で次のように語ります。

「2:22 それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」中年になった忠実なキリスト教の聖職者が若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい、と改めて言われる必要性があったというのは注目すべきことです。

C. 正しい良心

使徒 24:16 で、パウロは語ります。「24:16 そのために、私はいつも、神の前にも人の前にも責められることのない良心を保つように、と最善を尽くしています。」

テモテ第一 1:18-19 でパウロは、同労者にこう書いています。「1:18 私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなたにこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。 1:19 ある人たちは、正しい良心を捨てて、信仰の破船に会いました。」テモテは、3つのことをするように促されています。神の御国のために霊の戦いを戦う、真理に忠実であり続ける、そして、正しい良心を保つ、の3つです。正しい良心を保たなければ、つまり良心を捨ててしまえば、信仰の破船に遭う危険性があります。20節には、そのようになってしまったふたりの名が挙げられています。彼らは、偽教師になってしまいました。(1:20 その中には、ヒメナオとアレキサンデルがいます。私は、彼らをサタンに引き渡しました。それは、神をけがしてはならないことを、彼らに学ばせるためです。)

ジョン・マッカーサー師は、次のように語ります。「正しい良心は、罪と過ちという岩や岩礁の間を信仰者が操舵する舵の役割を果たす。偽教師は、良心と真理を無視し、その結果、キリスト教信仰(偽りのない福音の教理)の破船に遭った。これは、霊的破滅を意味する。本物の信仰者が救いを失うことを意味するだけでなく、背教者に訪れる悲しい喪失を指していると考えられる。彼らは教会にいて福音を聞きながら、3-7節に記された偽りの教えを選んで福音を捨てた。背教とは、福音を知りながら福音に背を向けることである。」(ジョン・マッカーサー、ジョン・マッカーサー・スタディバイブル、eBook: Revised and Updated Edition. Thomas Nelson)

ペテロ第一 3:15-17で、使徒ペテロはこう言います。「3:15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。3:16 ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。3:17 もし、神のみこころなら、善を行って苦しみを受けるのが、悪を行って苦しみを受けるよりよいのです。」

私たちのクリスチャンとしてのふるまいや証に対して悪口雑言を言う人もいます。使徒の働きの中でもキリスト教の歴史でもキリストの証人たちは福音を宣べ伝えたことやクリスチャンであることを理由に迫害されてきました。使徒3章と4章では、ペテロとヨハネがエルサレムの宮に行きます。ペテロは足に障がいのある人を癒し、福音を伝えました。4章では、ふたりは逮捕されてユダヤ人の議会であるサンヘドリンに連れ出されました。そこで、イエスとイエスの復活について話してはならないと命じられました。

この議会に対して、ペテロとヨハネは次のように答えます。使徒4:18-20「4:18 そこで彼ら呼んで、いっさいイエスの名によって語ったり教えたりしてはならない、と命じた。4:19 ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。『神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。4:20 私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。』」

福音を宣べ伝えるのを妨げる人がいるなら、人ではなく神に従わなくてはならないときがあります。

しかし、一般的には、私たちは指導者に従うべきです。宗教の指導者にも政府の指導者にもです。私はアメリカ人です。私たちアメリカ人は自由を愛するあまり、自分の支持しない法律には従いたくないと思います。他の国でも同じかもしれません。

しかし、ローマ13章を読むと、こういった態度について考えさせられます。ローマ13:1-5を読みましょう。「13:1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。13:2 したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにもそむいているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。13:3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行いなさい。そうすれば、支配者からほめられます。13:4 それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。13:5 ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。」

良心のために、私たちは上に立つ権威に従うべきです。では、ペテロ第一 3:16-17を読みましょう。「3:16 ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。3:17 もし、神のみこころなら、善を行って苦しみを受けるのが、悪を行って苦しみを受けるよりよいのです。」

では、私たちの良心が影響を受けるもうひとつの場面について触れます。テサロニケ第一 4:3-7です。「4:3 神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、4:4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、4:5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、4:6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たち

が前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。4:7 神が私たちに召されたのは、汚れを行わせるためではなく、聖潔を得させるためです。」

私たちは、不品行や姦淫を避けなくてはなりません。これは、配偶者以外の人物との性的関わりを持たないということです。神は、夫婦の間で楽しむものとして性交を造られました。これは、伝統的なキリスト教の教えです。私は保守的な家庭で保守的な教会に通いながら育ちました。ですから、私はこう教わりました。高校・大学と進むにつれ、同級生が同じモラル観を持っていないことに気づきました。誰かとセックスをしたいという肉体的な欲望は理解できました。私も普通の男性ですから、わかります。私は20代のときは独身でしたから、この部分について妥協することも考えました。多くの男性はそうします。けれども、このみことばが私を止めてくれました。毎日聖書を読んでいたので、時折、ヘブル13:4、コロサイ3:5、黙示録21:8、コリント第一6:18、といった個所に行き当たります。エペソ5:3にはこうあります。

「5:3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。」

もう一度テサロニケ第一4章を読みましょう。「4:3 神のみこころは、…あなたがたが不品行を避け、4:4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、」「からだ」と訳された部分は、「妻」とも解釈できます。自分のからだをきよく尊く保ちましょう。または、自分の妻をきよく尊く扱きましょう。どちらにせよ、これは大切な勧めです。注解書の多くは、原語の単語が自分自身の「からだ」を指すと考えています。私たち自身のからだを尊厳をもって扱い、配偶者以外の人物との性交にふけることのないようにしましょう。そんなことをすると、自分自身のからだを汚し、体を造られた神を汚すことになります。

6節には、「4:6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。」とあります。兄弟とは誰のことでしょう。同じ人間の仲間という意味でしょうか。同じクリスチャン、クリスチャンの兄弟姉妹という意味でしょうか。ですからこれは、自分の体の欲求を満たすために、同じ人間の仲間（とくにクリスチャンの姉妹）を利用してはならない、ということです。私もこれに同感です。私は聖書を真剣に受け止めていますから、この部分のモラルを妥協することは私の良心が許しません。このみことばと他にも関連した聖書個所が、あらゆるトラブルから私を守ってくれました。

D. 偽りのない信仰

ヘブル10:21-25

10:21 また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。10:22 そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。10:23 約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。10:25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

信仰については多くを語れます。今日は皆さんにたくさんのお話したかったので、信仰について話す時間があまり残されていません。今後いつか、その話題についてお話する機会があるかもしれません。今日のところは、ヘブル10章からいくつかの事柄を強調することにしておきます。私たちには、偉大な祭司である主イエス・キリストがおられます。そして、私たちは真心とまっさき信仰をもって主に近づこうと促されています。私たちの心は、以前の邪悪な良心からきよめられています。私たちのからだはきよい水で洗われています。これは、日々の行いがきよめられたという意味です。ですから、動揺しないでしっかりと希望を告白しましよ

う。私たちが時折つまずいたとしても、神は100%真実なお方だということを覚えてそうしましょう。そして、私たちは教会という共同体で、クリスチャンの兄弟姉妹とともに生きていることを忘れないようにしましょう。信仰の人生を生きていくよう互いに励まし合うためです。とくに、キリストの再臨が近づくにつれてそうしましょう。

時折、新聞記事やニュースを見ていて、黙示録に記された来るべき患難を連想することがあります。最近のコロナウィルスの世界的大流行と経済的影響から、黙示録18章が思い浮かびました。邪悪なバビロンにさばきがくだり、経済が突然崩壊します。（バビロンは世界体制の象徴です。）時事問題に來るべき大患難時代を垣間見たと感じます。

ですから、信仰と正しい良心を保ち、神を尊ぶ生き方をし、福音を宣べ伝え、困窮者を助け、兄弟姉妹を励ましましょう。